



雨水市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

TEL: 03-3611-0573 FAX: 03-3611-0574

H.P: <http://www.skywater.jp/>e-mail: office@skywater.jp

雨水東京国際会議 プレ会議に参加を！

- つなごうアジア、救おう水危機 -

「地球の水が危ない- 雨水に期待する -」 高橋 裕 東京大学名誉教授 講演

来年8月に開催されることとなった雨水東京国際会議まで、あと1年です。そのキックオフにあたって、「プレ会議」を8月7日(土)午後1時30分から開きます。

すでに「あまみず第36号」(2004年6月2日発行)でもお伝えしましたが、会場が墨田区役所13階から「すみだリバーサイドホール」に変更になりました。

1994年の雨水利用東京国際会議以降、日本の主な都市で雨水を活用するビルが3,400を超え、雨水利用の助成制度を導入する自治体が36に達するなど、日本の雨水の活用は大きな進展を見せています。雨を地下に浸透させ、水循環を克服する試みも全国的な展開を見せています。海外でも、雨水の有効活用や水循環を回復する試みは着々と成果を挙げてきています。ヨーロッパでは、毎年、5万を超える

住宅やビルに雨水の活用や地下浸透の機器が取り付けられています。中国の農村地域では、年間数十万基の単位で雨水タンクが普及し、農村の生活改善に大きく寄与しています。

しかし、その一方で、渇水と洪水、安全な飲み水の不足な

ど、水危機は地球規模で一層深刻化してきています。迫り来る水危機に対して、特に世界の人口の多くを占め、最も水危機が危惧されているアジアにおいて、私たちは、アジアの仲間と共に雨水で何ができるのでしょうか。そのことを考えるために、世界水会議の理事を長く務められ、日本における治水と利水研究の第一人者である高橋裕東京大学名誉教授をお招きし、講演会を開きます。ふるってご参加ください。

詳細は、同封のプレ会議案内のチラシをご参照ください。また、チラシをコピーなどして積極的な呼びかけをお願いいたします。

講演会終了後、第2回実行委員会を開きます。ここでは、全体会や分科会のこれからの取り組みなどの話し合いが行われます。会議の成功に向けてみんなの英知を持ち寄りしたいと思います。



総会で今年度の活動として位置づける

6月20日(土)午前10時から、雨水市民の会第10回定期総会が、すみだ環境ふれあい館内の雨水資料室で開かれました。詳しい報告は、次号でお伝えしますが、「雨の環境学習プログラムプロジェクト」など、新たな提案がありました。今年度の市民の会の活動は、雨水東京国際会議を念頭に入れながら取り組むことが確認されました。

雨水東京国際会議実行委員会組織体制

総会に続き、午後には、第1回東京国際会議実行委員会が開催されました。共催の墨田区をはじめ、関西、京都、香川、沖縄、京都、愛知の雨水市民団体、気象キャスターネットワーク、日本下水文化研究会、酸性雨調査研究会、日本トイレ協会、全国水環境交流会、雨水事業者の会、雨水流出抑制技術協会市民団体など、44名が初顔合せを

しました。

墨田区からは山崎昇区長が挨拶をし、10年前に墨田区で開催された雨水利用東京国際会議の検証をすると共に、水危機を回避するため国際的な雨水活用がさらに広まっていくことを期待する旨を述べました。

その後、実行委員会の会則が了承され、実行委員会の会長には、当会の辰濃和男会長、その他、副会長、会計、幹事、会計、事務局長などの役員が選出され、事務局は墨田区環境保全課に置くことが決まりました。

辰濃実行委員会会長は、「雨水市民の会は『利用』という言葉はずした。雨をモノとして捉えず、『いのち』として見たい。雨を当たり前前に活かせる社会をつくり上げていくために国際会議を成功させよう」と、訴えました。



1年後の国際会議に向けて、各団体から活発な意見が出されました。(6/20・第1回実行委員会にて)

第1回実行委員会幹事会が開かれる

7月17日(土)午後2時から、雨水資料室にて初めての幹事会が開かれました。具体的なスケジュール、予算、テーマ、分科会について盛んな意見が出され、右記のような案としてまとめられました。

実行委員会に参加しませんか

分科会は最大で12分科会が可能です。幹事会が提案した分科会は現在10です。内容は、分科会ごとにこれから議論して煮詰めていくこととなります。

8月7日のプレ会議の講演終了後に、第2回実行委員会が開催されますので、ふるってご参加ください。また、分科会、基調講演、国際雨水サミットなども含めて中身については、今後、実行委員会の集約をしながら進めていくこととなります。

雨水東京国際会議実行委員会組織

会長：辰濃和男(雨水市民の会)

副会長：水野育成(関西雨水市民の会)

徳永暢男(雨水事業者の会)

酒井 彰(日本下水道文化研究会)

代表幹事：山本耕平(雨水市民の会)

他 幹事：50名(7月26日現在)

会計幹事：藤春加代子(墨田区環境保全課長)

会計：糸賀幸子(雨水市民の会)

監査：永廣 修(墨田区環境担当部長)

小林容三(雨水市民の会)

顧問：高橋裕・東京大学名誉教授、小山泰正・

東邦大学名誉教授、鈴木信宏・東京理科大学教授

事務局：墨田区環境保全課

(電話 03-5608-6209 FAX 03-5608-6934)

事務局長：村瀬 誠(雨水市民の会・墨田区環境保全課主査)

スケジュール：2005年8月1日(月)～7日(日)

4日(木)ポスターセッション

5日(金)基調講演、国際雨水サミット

5日(金)～6日(土)分科会

7日(日)雨水視察

1日～7日 雨水利用機器・ポスター展示

テーマ：つなごうアジア、救おう水危機

-No More Tanks for War, Tanks for Peace-

分科会テーマ案

雨の環境学習

安全な飲み水の確保(国際協力含む)

雨水の貯留・浸透・利用(地下水含む)

雨を活かした緑豊かな都市づくり

保水型下水道の構築

緑のダムと水循環

農からの発想

(バーチャルウォーターや棚田含む)

雨水利用を進める政策

雨の文化

ユース雨水 他

(幹事会案)

広報部会より

今回、プレ会議の開催のお知らせのため臨時号としました。「あまみず第37号」は8月下旬頃に発行する予定です。